



PACIFIC ISLANDS FORUM

日本は太平洋と協力して、福島の汚染水放出問題の解決策を見つ けなければならない - さもなければ我々は災害に直面するだろう

太平洋諸島フォーラム事務局長 ヘンリー・プナ氏による意見書
(2023年1月4日付ガーディアン紙掲載)

2021年4月に発表された100万トン以上の放射能汚染水を太平洋に放出する計画について、太平洋諸島フォーラム（PIF）加盟国は過去20カ月間にわたり日本政府と対話を続けてきました。

私は、PIFメンバーが当初から、この提案が環境と人間の健康に与える影響について確信が持てるまで、日本はこのような排出を控えるべきだという非常に強い立場を取っていたことに心を打たれました。特に、太平洋の人々の大多数が沿岸の人々であり、海は私たちの生計を立てる上で、不可欠な部分であり続けることを認識しています。

私たちは、日本の立場と一方的な決定を支える根拠を理解するために、日本と協力するための重要なステップを踏みました。地域としては、技術的なレベルで協力することを約束し、原子力や放射線、高エネルギー物理学、海洋化学、生化学、海洋生物学、海洋学などの主要分野の5人の科学専門家からなる独立したパネルに、このような放出の影響に関する独立した科学評価を提供するよう依頼しました。

しかし、この1年の議論は、決して明るいものではありませんでした。私たちは、提案されている海洋放出について、深刻な情報のギャップと重大な懸念を明らかにしました。簡単に言えば、海洋放出を許可する前に、より多くのデータが必要なのです。にも

かかわらず、日本は 2023 年春に放出する計画を実施し、今後 40 年間、放出しながらデータ不足の問題を解明することを決定しています。

核汚染の経験から、現時点で海洋排出計画を継続することは考えられませんし、「解明する」ために 40 年間も放置するような余裕はないのです。

このまま放置すれば、この地域は再び他者の手による大規模な核汚染災害へと向かうのではないかと懸念しているため、今、この活動の完全な影響について共通の理解を得るために協力することが不可欠である。現在と将来の世代のために、今こそ、このような排出が環境や人間の健康に与える影響を十分に理解した上で、何らかの決断を下すべき時です。私たちは、自分の子供や孫のために、子々孫々の未来が安全で確実なものになるように努力する義務があります。これは、私たちの道徳的、法的義務です。

私たちは共に、ラロトンガ条約を通じて交わした約束を守らなければなりません。私たちは、放射性廃棄物や核廃棄物、その他の放射性物質による環境汚染のない地域を維持し、海洋投棄や他国による投棄を援助・奨励する行為を防止する法的義務を守らなければなりません。

この話は今に始まったことではないことを思い知らされます。40 年前、PIF のリーダーたちは、日本や他の海運国に対しても「核廃棄物を太平洋に貯蔵したり投棄したりするのではなく、自国で貯蔵したり投棄したりするように」と促していました。この政治的声明からわずか 4 年後の 1985 年、フォーラムは「日本は、この地域のコミュニティが表明した懸念を無視して、放射性廃棄物を太平洋に投棄するつもりはない」という日本の首相の声明を歓迎しました。

海洋放出の決定は、日本国内だけの問題ではなく、グローバルで国境を越えた問題であり、国際法上の義務との関連で問題を検討する必要性を生じさせるものであります。国際的なガバナンスの観点から適切な道を選択し、採用することが重要であり、国際法の下で利用可能なメカニズムを含むあらゆる可能な手段を追求しなければなりません。

現在の国際的な安全基準が、福島第一原発のような未曾有の事態に対応するのに十分かどうか、時間をかけて精査する必要があるのです。実際、この前例のない事故の性質は重大な懸念材料となっています。国際社会としてどのように対処するかは、将来の行動

と対応の前例となります。気候危機や自然災害の激しさと規模が拡大し、世界中の原子力発電所やインフラの安全性に大きな課題を突きつけていることを考えれば、これは特に重要なことです。

代替案としては、安全な保管と放射性崩壊、バイオレメディエーション、特殊用途のコンクリート作りに処理水を利用することなどがあります。

私たちの目の前には、40年にわたる投棄を待たずとも、事前に、正しく対処する絶好の機会があります。私たちの地域が、再び誤った安心感にみすみす陥るようなことは良心に照らして受け入れることができません。

私は、排出の計画を中止することを求めているわけではありません。私は、人々の健康と海の健全な管理に必要な安全性の保証を得るために、科学的な厳密性を確保できるよう時間をかけて協力することを求めているのです。私は今日、太平洋の人々が数十年前、私たちの地域と海が核実験場にされてしまったことが分かった時に、尋ねる機会がなかったことを尋ねているのです。私は、すべての人にとって最善となるような一連の行動とは何かを選択する前に、それらの行動が私たちの地域に、どのような意味を持つのかを十分に検討する時間を持つよう求めているのです。

私たちを無視しないでください。私たちとともに取り組みましょう。私たちみな未来、子々孫々の未来は、それにかかっているのです。